

黄城

Ojo News Letter Vol. 41

CONTENTS

特集黄城人	2
会長挨拶・母校の近況	5
合格だ！優勝だ！	6
各支部総会報告	8
卒業50周年を祝う	10
後輩からの一言	11
投稿・トピックス	12
黄城会総会を終えて	14
役員一覧・物故者・寄贈	15
事務局通信	16

発行▶平成23年7月1日

発行所▶黄城会

発行人▶岩松 要輔

印刷▶㈱音成印刷



末永 敏和氏
大阪大学名誉教授
龍谷大学法科大学院教授

小城高校黄城会会報黄城（通算41号）の巻頭特集「黄城人」は現在大阪大学名誉教授・龍谷大学法科大学院教授・法学博士であられる末永敏和さん（高校18回）の登場です。今年5月2日に小城高校で開校記念の一貫として行われた記念講演の内容です。題して「ものの見方、聞き方、考え方」これまでの体験に基づいた講演内容をじっくり読んでみませんか。

一 はじめに

皆さんこんにちは。私は今年の3月31日で大阪大学を定年で退官しまして今は京都にあります龍谷大学というところでやはり法律を教えています。弁護士も一応登録はしておりますが、あんまり実際の活動はしておりません。小城高校を卒業してもう45年になります。定年を迎えて昔を振り返って皆さんの将来に私の教師生活の経験を役立てて頂きたいというのが今日のこの講演の趣旨だろうと思ってお話を用意致しました。

二 学習の仕方、内容など

1 ものの見方

今日の話は「ものの見方、問い方、考え方」であります。要するに、見る・問う・考えるというのは「学ぶ」あるいは「学習」ということです。学問をするということはどういうことかということをちょっとだけ私の経験からお話します。

まず、「見る」ということは理解すること、いろんな考え方を知るという事、あるいはいろんな角度から物事を理解・把握するという事です。理解の仕方はいろいろあります。皆さんは一つしかないと思うかもしれませんが、いろんな見方があります。ともかく人間というのは環境に左右されて生きていますので、なかなか環境から解き放たれて客観的に見るということが難しい。自分の経験からでしか見られないのでして、そこをいかに離れて見られるかということです。

自分を離れてみるためにはどうしたらいいかと、第1は比較的に見るということです。つまり世界と比較することが重要です。後進国であった日本の明治時代には当時の先進国であるヨーロッパとかアメリカの人を呼んできた「おやとい外国人」というのがいまして、例えば「少年よ、大志をいだけ」という言葉で有名なクラーク博士のような優秀な人がたくさん来たんです。その人たちから学びました。

2番目は歴史的に見ることです。昔はどうだったのか。つまり昔から今はどういう風になってきたかということ学ぶということも重要であります。歴史は繰り返すとも言いますし、また歴史は進歩するとも言うわけで、昔から現在までを学ぶことは将来を予測することに非常に役に立ちます。

3番目にマクロ的そしてミクロ的に見ることです。大きな目で見るということと逆に小さく見ることの両方とも必要なんです。ビッグバンというのはほんの小さな点から宇宙が始まるという考え方で、小さい点から爆発して今物凄く遠く何十億光年まで宇宙は広がってます。つまり小さなものを見るということは結局大きなものを見るということと結局つながるということなんです。だからやっぱり大きく見るということと小さいものを見るということは両方とも非常に重要であるということです。

4番目に、世の中にはいろいろなことが起きているので、そのたくさんさんの事例を見ることです。この方法をケース・スタディーというんですが、経営学とか法律学でも昔とか今の例をたくさん見るというのがケース・スタディーでして、当面のことはそれを当てはめて見ればだいたいことは解ります。みなさんはそういうことで毎日、外で何が起きているか、新聞を読んだり雑誌を読んだりすることが非常に重要です。

このように理解の仕方が4つ位ありますが、その見る基礎に「コモンセンス(教養)」があればさらによく見えます。教養があったらより深く

物事を見ることができるということでありまして、アメリカの大学は、大学の学部のうちには教養ばかり教えて、これを「リベラル・アーツ」というんですが、専門的な事は大学院で勉強します。今の日本もだんだんそうなっています。というように学問はだんだん細かく深くなっているんですけど、その基礎に教養がないとそういうことが十分に学べないということです。

2 問うということ

それから次に「問う」ということは要するに疑問をもって物事を見る、批判的な精神をもって見るということなんです。「なぜ」そうなのか？つまり、「なぜ、なぜ、なぜ…」と問うていくことが必要なんです。そしたら理由が分かってより理解が深まるということです。

3 考え方

「考える」ということは、考えてそれがいいかな〜ということを検討して、結論を導き出すことです。その結論を出す課程を「価値判断」といいますが、要するに価値判断というのは一番悪いこと、してはならないこと、まあしても良いだろう、最後は特にしたほうが良いだろうというように序列をつけることです。この価値判断は重要でこれが考えるということです。また考えて人によっていろんな答えがあるという事も知っていただきたいということでもあります。つまり答えは一つとは限らないんです。まあみなさんは受験勉強中でまだ今答えはひとつしかないと考えているかもしれないけれども、これから生きていく上でいろいろな答



えがあるということに段々気が付くと思います。つまり、答えは一つとは限らないのでそれぞれが新しい答えを求めて勉強するというのが学問です。大体世の中の進歩というのは少数説から始まります。少数説が段々受け入れられて多数説になって世の中が進歩する。同じことをやっていたのでは遅れてしまう。日本もたえず技術革新をしているのと同じように、今までと同じことをやっても全然世の中進歩しないということです。例をあげると、この地球という大地は動かないように見えます。昔の人は天が動いていると思っていたわけですが、動いていないと思っていたんですが、動いているのは天ではなくて地球なんだと初めて言ったのがコペルニクスです。そういう具合に全然人が思わない事を言うということが重要です。それで世の中ガラリと変わるということなんです。

4 失敗の重要性

ということであらその新しいことを考える場合にはどうしても失敗というのはあるわけですし、試行錯誤を重ねて良い物が出来ていく。ということでありまして、失敗を恐れないということが重要です。何事もやってみないとわからない、だからやりましょう飛びましょう。失敗をしてもいいんです。失敗から何か学べばいい訳です。だから失敗を沢山重ねた人ほど成功しているともいえます。だから失敗をおおいにしましょうということでもあります。そういう意味で失敗したからあの人ダメだっていうんじゃなくて失敗しているからあの方はたくさん経験を積んでいる、だから尊重するというような世の中が進歩する。つまり失敗したから減点するのではなくて少し良いことしたから加点するというように減点主義から加点主義へと世の中を変えていかなきゃいけないということでもあります。

5 学ぶ目的

なんのために学ぶのでしょうか？これは要するにみなさん高校あるいは大学まで行ってその後社会にでるわけですから、社会に出ていける為の

手段つまり生き方を身に着けるということが学ぶ目的であります。それは単に各科目を勉強するということだけではなくて社会常識・コモンセンスやマナーとかを身に着けて、人間性を磨くということも重要です。挨拶をする、礼儀正しくする、公共マナーを守るということは、みなさんこれから社会に出て行って、あるいは世界に出て絶対必要な事です。ルース・ベネディクトの「菊と刀」という本がありますけれども、西洋は罪の文化、それは罪だからしないということ自分で自分を律している。けれど日本は恥の文化といわれてます。こうすることは世間の恥なんだということやらない。それはそれでいい文化だと私は思います。この前の地震の時に日本人は非常に冷静に行動したと世界の人から称賛されております。ということで、理由はともかくやはり礼儀をわきまえるということは重要であるということなんです。

6 何を学ばばいいか

世の中に出ていく為にどういうことを学ばばいいかということですが、昔の寺子屋の時代あるいは明治時代には、読み、書き、そろばんと言われたんだけど、読み書きそろばんを現在にあてはめるとそれは何かといいますと、私は現代は情報社会と言われる世の中で英語、コンピュータ、それから簿記会計だと思います。最後の簿記会計ですが、中田英寿という人を知っていますか？サッカーで世界的に有名な人ですね。彼が何を今勉強したいかと聞かれてやりたいと言ったこと、簿記をやりたいと、彼はやっぱり賢いですね。簿記をやれば世の中の経済や、ある会社なり団体なりがうまくいっているのかどうかというのがわかるんです。

7 皆さんの将来と生き方

皆さんはこれからあと60年以上は生きていくだろうと思うんですけど、その将来を生き抜くにはどういうことを学ばばいいかということです。それはまず日本と世界が今どうなっているかということを知る必要があります。皆さんの生活は実は世

界と繋がっているんです。皆さんの服あるいは食べ物は、日本製のものではないのが半分以上です。そのようにみなさんの身の回りから考えても世界と繋がっているということがわかります。要するに世界を常に意識するというのが1番目です。

2番目はその日本と世界で今どんな問題があるだろうかということを知る必要があります。日本は明治時代あるいはその前からいろいろな事が重なって今の日本があるんです。その間にいろいろな問題が生じています。例えば今の日本では少子高齢化、つまり皆さんのような若い人が少なく年寄が増えてきた。それから経済格差の問題がある。貧乏人と金持ちに分かれてきている。それから環境問題がある。そして平和の問題がある。たくさん問題があるがそういう問題の多くが日本が世界に先駆けて発生しています。東大の学長が「課題先進国日本」といいました。だから課題が多いだけに学ぶこととかこれからやらなきゃいけないことがたくさんあるということがわかるんです。だから課題の多い日本で勉強するということが重要であって、それを勉強する場が大学であるということです。みなさんは大学に行ってその課題に挑戦していただきたいということでもあります。それから日本は世界と繋がっているということで1回日本を出て世界を見てみるということも重要です。そうすると日本が見えてくる。また世界の人に日本の事を教えなきゃいけないから日本の事を勉強しなきゃいけないという気持ちになる。そういうことも重要です。

8 人ために役に立つこと

あなた方はこれから世の中に出ていくわけですが、やっぱり人の為に役に立つことをやって生き甲斐を見出してもらいたいです。人間というのは一人では生きられない、皆さんでお互い支えあって生きなきゃいけない時代という社会です。そこでは他人を思いやる精神が必要です。つまり他人の身になって考えるということが必要であるということなんです。

どうしても人間は自分を中心に考えるんですけども、自分がその人だったらどう考えるだろうかということをもいつも思っていたきたい。どれだけ自分を離れて考えられるかということはその人が成熟しているかのものさしになります。

それからどれだけ他人の為に役に立つかということを考えて職業を選びましょう。その為には世の中はどのような仕組みになっているかということを知ることが必要であるという事です。

9 競争社会について

皆さんは今受験勉強をしているということはやはり競争の世の中で生きているということの証拠ですよ。皆さんは受験という競争をしています。これを社会の問題として考えてみましょう。日本や世界の大半は市場経済社会です。そのような社会では競争が柱となっています。そこで、何のために競争するのかということなんですが、これはやっぱり競争することによっていいものが出てくるから競争というのがあるということです。だからその競争は公平に行わなければいけない。ルールに従って行う必要がある。だから受験競争でいえば、不正をしてはいけませんよ、カンニングしてはいけませんよと皆さん言われる。けど逆に考えると競争であれば勝つ人もいれば、やっぱり負ける人も当然でくるわけですから、負ける人のことも考えなければいけないということです。負けた人を救う手段をセーフティーネットというんですけれども、そういうことも考える必要があるということです。また、競争するにしても役に立ついい物を作るということが競争の意味ですから人の事を思いやらなければいいものはできないということです。人にとって役に立つものを作ろうと、つまり人の為にということをもいつも考えることが必要でありまして、それが結局、競争に勝つということに繋がるんです。情けは人の為ならずという言葉がありますが、情けを人にかけるということは結局まわりまわって自分の為になりますよ

という意味で競争もそうです。人の為に役に立つかということを考えるということは結局自分の為になるんです。

10 趣味を持つこと

そういう具合にちょっと世の中だんだん厳しくなっているんですけども、そしてそれが明白になってきているんですけども、一方で競争競争で明け暮れたら疲れます。それでは疲れないで長くやっていくにはどうしたらいいか。そのためには気分転換する、趣味を持つということが必要であります。ということで頭の転換の為に趣味を持つということですが、逆に趣味をもつ中で新しい事が生まれる、新しい発想も出来るということでもあります。世界保健機構(WHO)の憲章で健康とは肉体的な健康だけでなく精神的な健康も含むといっています。肉体的に健康ということと精神的に健康、両方健康に保つということですね。これが重要です。あまり悲観的にならない、将来開けるかもしれないと楽観的になりましょう。そういう意味でスポーツをしたり、芸術、音楽を聴くとか映画を見るということも重要であるということですね。

11 挑戦する人生、楽しい人生

それから人生一度限りですが、80年以上長い世の中人間を送らなさいいけない。その一度しかない人生に意義のある人生にしようではありませんか。つまり何回でも挑戦する、失敗を恐れない、また失敗したらやり直すことです。皆さん若いんですから、何度でもやり直しはききます。挑戦する、まず跳んでみるということが必要です。また苦しいことも苦しいと思わないで楽しい気分で行きましょう。私はずっとその気持ちで今までやってきました。苦痛と思えばなかなか続きません。やっぱり何か成果を出すためには3年位頑張らないと成果はでないの、だから続けることが必要だと思います。石の上にも三年という言葉がありますが、続ける際に苦痛と思って続けるとこれは続かないから、楽しいと思って続けるということが必要であるということですね。



三 終わりに

私は4年前に一度ここでみなさんの先輩に話をすることがあります。その時に小城高校の目標は「オンリーワン教育」であるということを知り、確かにひとりひとりの個性を大事にするというオンリーワン教育というのは非常に大事なことであるということを知り、世界に一つだけの花という歌があるねと言って唄いましょうといっはしごをはずされて私1人が歌うはめになってしまいました。ただ、オンリーワンということは非常に大事なことであるんだけど、皆さん若いんだからオンリーワンだけでなく「ナンバーワン」を目指しましょうと言いました。ナンバーワンになってほしいと言ったら小城高校野球部がその年の秋の県の野球大会でナンバーワンになって、九州の高校野球で3位になってその翌年の選抜高校野球に出ました。そういうことで前の講演は非常に印象に残っています。私は皆さんに幸せをもたらす男でありたいと思っています。今回のこのお話がこれからの皆さんの幸せにつながればいいなと思ってこの講演を終わりたいと思います。どうもみなさんありがとうございました。

PROFILE

末永 敏和 (64歳)

小城高校 昭和40年度卒 (高18回)

- ・昭和46年3月 京都大学法学部法学科卒業
- ・昭和48年3月 京都大学大学院法学研究科民刑事法専攻修士課程修了
- ・昭和50年3月 京都大学大学院法学研究科民刑事法専攻博士課程退学
- ・現在 大阪大学名誉教授・龍谷大学法科大学院教授・法学博士



将来に向けて

黄城会会長 岩松 要輔

平成23年度を迎え、全国各地の会員の皆様におかれましては、益々ご清栄のことと拝察申し上げます。

小城公園は、春の桜・ツツジの花から、楠の若葉が輝く初夏の季節となっています。小城高校内の大楠も若葉で覆われた枝を伸ばし、何時ものどっしりとした姿を見せています。

恒例の黄城会総会は去る5月3日小城公園はツツジの花が咲き誇るなか、母校小城高校の体育館で盛大に開催されました。去る3月11日の東日本大震災後のことではありましたが、この大震災で亡くなられた方々のご冥福を祈念して参加者全員で黙祷を捧げました。そして、被災された方々の一日も早い元気回復と復興を祈念して、会場で募金活動などが行われました。

今年度の実行委員は高校38回卒の方々が務められ「～道～未来へと続

く黄城の道、受け継がれる黄城の心」のスローガンのもと、北島清孝実行委員長を中心に「黄城の集い」「アトラクション」（揚琴演奏、子供民謡、小城高吹奏楽）と充実した展開をされ、最後の「上を向いて歩こう」「ふるさと」の全員による合唱は心に響くものでした。

恒例の「饅頭会」は次期実行委員である高校39回卒の方々によって楽しく催され盛会でした。

黄城会所蔵の「朝日」について報告します。作者青木繁の没後100年を記念して、久留米の石橋美術館が中心となり本格的な作品展が企画され、「朝日」は青木の最晩年の作品として出品を求められました。今回の展示は、青木の作品を一堂に集め、去る3月から久留米の石橋美術館を最初に開催され、次いで5月から京都国立近代美術館、最後に7月から東京のブリジストン美術館と3か所

で移動展示がなされます。最寄りの会場で青木の他の作品と共に「朝日」をご覧いただくことをお勧めします。

さて、黄城会本部、各支部、各回期の活動の様子を出来るだけ広く知っていただく手立てとして、本部のホームページを昨年10月に新しくいたしております。ご意見、情報をいただきながら充実して参りたいと思いますのでよろしくお願い致します。

関東支部におかれては、昨年8月「関東黄城会報」を創刊され、益々支部活動発展の契機となるものとしてお喜び申し上げます。今後とも活発な活動を期待いたしております。

最後になりましたが、会員の皆様のご健勝と東日本大震災の一日も早い復興を、この黄城の地から祈念いたします。



母校の近況

学校長 内野 安成

1、学力・進路実現について

現在の生徒諸君に接した私の率直な印象は、明るく礼儀正しく真面目な生徒諸君であるということです。まず、落ち着いた小城高生としての立ち居振る舞いができることに安心しました。その出発点を踏まえて、授業に集中して臨み、将来の進路を考えながら日々の学習と部活動とに集中して取り組み、知・徳・体の調和のとれた人物となり、その結果として、将来の夢、希望する職業という進路実現に繋がるようにしたいと考えております。

具体的に、平成23年度大学入試等の結果について報告します。国公立大学合格者数は延べ89名、私立大学合格者数は延べ234名、短期大学延べ14名、文科省外大学1名、高等看護学校延べ6名、医療系その他の専門学校延べ48名、公務員を含めた就職4名という結果であります。その中でも、難関大学では九州大学は1名でしたが、大阪大学にも合格者を出すことができました。また広島大学には6名の合格者を出しております。今年度のセンター試験の平均点が上昇し、二次で相当の努力が必要な状況にあったのですが、よく難関にも挑戦し、例年と遜色ない結果を出しています。私立大学では、指定校推薦枠を含めて明治大学・同志社大学・立命館大学といった関東関西方面の難関大学に合格し、九州地区では福岡大学に63名の合格者を出しております。一方で近年の就職状況の厳しさを反映して、高等看護学校等の専門性を身につける分

野に進む諸君にも厳しい関門でした。厳しい状況の中で、例年と変わらず希望進路実現が達成できているのは、第一に生徒諸君の真面目な努力があってのことです。それと同時に、本校の先生方の寸暇を惜しまぬ熱心な指導、そしてご家庭のご協力、同窓会、地域のご理解とご支援があるお陰と存じます。本当に有り難うございます。

2、部活動・生徒会活動について

部活動や生徒会活動でも生徒諸君の地道で真面目な取り組みが成果を出しております。文化部では特に書道部と吹奏楽部の活躍が光っております。書道部は、たくさんの方々の大会で優れた賞を受賞しておりますが、全国レベルでの成果として全日本高校書道コンクールで上野明音さんが部門最高賞、陣内愛さん・野崎千里さん・山口亜祐さん・原口ゆり子さん・池上綾佳さんが準部門最高賞を受賞、団体賞として全国優秀校としての表彰を受けております。吹奏楽部は佐賀県吹奏楽大会で金賞を受賞、合唱コンクール県予選で金賞を受賞し、九州合唱コンクールでも銀賞に輝いております。このほか、美術部・放送部等でも県レベルで多くの受賞が続きました。

体育部では、まず第一に柔道部の活躍が上げられます。女子は県高校総体での団体優勝、坂井友美さん・永田翼さんの個人優勝、インターハイに出場した中で坂井さんは第3位にも入賞し、佐賀県スポーツ賞も受賞しています。女子は県新人柔道大会・全国高校選手権佐賀県柔道大会でも優勝しました。男子

も全国高校選手権県大会で2人が入賞し、九州レベルでの活躍をしております。ソフトテニス部は、男子が県高校総体で3位入賞、女子は高校新人大会で同じく入賞し九州大会へ本田七海さん・新川真美さんが出場する活躍をしています。バドミントン部は県総体・県新人大会で3位入賞し、高木俊充君は個人優勝をしました。学校外の社会体育分野で、空手でも島隆聖君・田中宏樹君が全国・九州選抜大会への出場を果たす活躍をしております。剣道部女子は春季大会で第3位入賞、弓道部は県高校総体で男子が団体2位女子が個人で2位の成果を上げています。今年度4月以降でも、例えば野球部はNHK杯出場を勝ち取りました。その他の部活でも、知力・体力・精神力を鍛えつつあり頼もしい限りです。

生徒会・水曜会の諸君も積極的に活動し、高校生としてのマナーアップ・ルール遵守の態度を自発的に高める活動に取り組んでいます。東日本大震災に際して校内外での募金活動はもとより、工夫をした校内放送をして自主性を育む働きかけをしています。

3、「文武一途」を旗印に、社会貢献できる人材の育成に邁進する

校長室に掲げられた明治時代の書聖中林梧竹翁の「文武一途」の扁額にふさわしい活躍を、母校の生徒諸君が続けられるよう、今後ともご声援をよろしくお願い致します。高校23回卒としての自重と責任を持って職を全うしたいと思っております。よろしくご叱正ください。



合格だ!優勝だ!

平成22年度
学業報告・部活動の成績

平成22年度合格状況

【国立大学】 京都工芸繊維大学1 / 大阪大学1 / 和歌山大学2 / 広島大学6 / 島根大学3 / 山口大学4 / 九州工業大学1 / 九州大学1 / 福岡教育大学2 / 佐賀大学26 / 長崎大学5 / 熊本大学3 / 大分大学3 / 宮崎大学5 / 鹿児島大学4 / 琉球大学1

【公立大学】 広島市立大学1 / 山口県立大学2 / 下関市立大学2 / 北九州市立大学3 / 福岡女子大学2 / 長崎県立大学11 / 宮崎公立大学1

【私立大学】 国際医療福祉大学2 / 國學院大学2 / 芝浦工業大学1 / 日本大学1 / 明治大学1 / 京都産業大学1 / 同志社大学1 / 立命館大学2 / 近畿大学5 / 梅光学院大学2 / 九州共立大学1 / 九州産業大学5 / 久留米大学35 / 西南学院大学4 / 筑紫女学園大学11 / 中村学園大学9 / 福岡大学63 / 福岡工業大学14 / 福岡女学院大学3 / 西九州大学11 / 活水女子大学1 / 長崎国際大学1 / 熊本学園大学4 / 日本文理大学1 / 立命館アジア太平洋大学4 / 宮崎国際大学3 / 千葉工業大学7 / 宇部フロンティア大学4 / その他の大学35

【短期大学】 私立短期大学14

【その他】 文科省外大学1 / 高等看護学校6 / 医療系専門学校5 / その他専門学校8 / 就職4

平成22年度部活動の成績

【運動部】

1. 柔道部

○第48回佐賀県高等学校総合体育大会／女子団体優勝（九州・全国大会出場）／女子 48kg級 第3位 酒井あかり／63kg級 第1位 坂井 友美（九州・全国大会出場）／第2位 篠原 千穂（九州大会出場）／70kg級 第1位 永田 翼（九州・全国大会出場）／第2位 永田 睦（九州大会出

場）／78kg級 第2位 笹川絵里子（九州大会出場）／男子 100kg級 第3位 大坪 一輝

○平成22年度全国高等学校総合体育大会／柔道女子63kg級 第3位 坂井 友美

○平成22年度佐賀県高等学校新人体育大会柔道競技大会／女子団体優勝／男子 73kg級 第2位 土井 康孝／81kg級 第2位 宮崎 雅也／100kg 超級 第3位 大坪 一輝／女子 48kg級 第1位 酒井あかり／63kg級 第1位 篠原 千穂／70kg級 第1位 永田 睦

○第33回全国高等学校選手権佐賀県柔道大会／女子団体 第1位／女子 63kg級 第1位 篠原 千穂／70kg級 第1位 永田 睦／男子 60kg級 第2位 吉田 和司／73kg級 第3位 土井 康孝／81kg級 第2位 宮崎 雅也

2. バドミントン部

○第48回佐賀県高等学校総合体育大会／男子団体第3位・女子団体3位／男子シングルス第3位 高木俊充（九州大会出場）

○第29回全日本ジュニアバドミントン選手権大会／JOCジュニアオリンピックカップ県代表ジュニアの部男子シングルス出場 高木俊充

○第35回佐賀県高等学校生徒バドミントン競技学年別大会／第1学年男子シングルス3位 富永 健太／第1学年女子シングルス3位 古川 祐衣／第2学年男子シングルス2位 高木 俊充

○平成22年度佐賀県高等学校新人体育大会バドミントン競技大会／男子団体第3位／女子団体第3位／男子ダブルス 第3位 高木 俊充・今泉 佑貴／男子シングルス 第1位 高木 俊充

3. ソフトテニス部

○H22年度春季佐城地区高等学校大会／女子団体3位

○第48回佐賀県高等学校総合体育大会／男子団体3位

○H22年度秋季佐城地区高等学校大会／女子団体3位／男子個人3位 佐々木流成・天山 弘覚

○平成22年度佐賀県高等学校新人体育大会ソフトテニス競技大会／女子団体3位／個人ベスト8位 新川 真美・本田 七海（九州大会出場）

4. 水泳部

○第48回佐賀県高等学校総合体育大会／女子100m自由形第2位 久我桃子

○第58回全九州高等学校水泳競技大会佐賀県予選／女子100m 自由形 第1位 久我 桃子（九州大会出場）／女子 50m 自由形 第1位 久我 桃子（九州大会出場）

○平成22年度全九州高等学校選手権新人水泳競技大会／女子50m 平泳ぎ・女子100m 平泳ぎ出場 松尾麻友香

5. 剣道部

○平成22年度第45回佐賀県高等学校春季剣道大会／女子団体第3位

○平成22年度第7回佐賀県高等学校剣道大会 兼 第20回全国高等学校剣道選抜大会県予選／女子団体第3位

6. 弓道部

○第48回佐賀県高等学校総合体育大会／女子個人第2位 山田 瑞紀（九州・全国大会出場）



ソフトテニス部



柔道部

7. 陸上部

- ジュニア春季陸上記録会／100m 第3位 西村 優人／800m 第3位 北島美也子
- 第45回国見台陸上競技選手権大会／共通女子800m 第3位 北島美也子
- 第48回佐賀県高等学校総合体育大会／女子1500m 第6位 北島美也子（北九州大会出場）／男子100m 第4位 西村 優人（北九州大会出場）／男子200m 第5位 西村 優人（北九州大会出場）／男子三段跳び 第5位 中村 拓郎（北九州大会出場）

8. 社会体育

- 平成22年度佐賀県高等学校新人体育大会空手競技大会／男子個人形優勝 島 隆聖
- 第20回九州地区選抜空手道選手権大会／高校男子 形の部 第2位 島 隆聖

【文化部】

1. 吹奏楽・合唱部

- 第65回九州合唱コンクール佐賀県予選／金賞 団体吹奏楽・合唱部九州大会出場
- 第65回九州合唱コンクール／銅賞 団体吹奏楽・合唱部
- 第51回佐賀県吹奏楽大会／金賞 団体 吹奏楽部

2. 書道部

- 第16回九州高文連沖縄大会書道部門 揮豪（きごう）大会／第3席 陣内 愛
- 第35回佐賀県書作家協会展高校生の部／新鋭賞 陣内 愛／特選 野崎 千里・山口 亜祐／奨励賞 成住 美咲・塚田 愛梨・野方 理沙・平 由宇／秀作 古賀 春香・貞松めぐみ・辻 千恵・原口ゆりこ

- 第38回佐賀県書道教育連盟主催七夕書道展／J A共済佐賀賞 山口 亜祐／特選 成住 美咲・永田 唯華／秀作 塚田 愛梨・平由宇・光石 夏澄・卯野木杏奈・大崎 美和
- 第11回高校生国際美術展 書の部／奨励賞 成住 美咲
- 四国大学主催全国高校書道展／大賞 卯野木杏奈／特選14名／準特選7名
- 第9回岐阜女子大学全国書道展／準大賞 成住 美咲・陣内 愛・野崎 千里／優秀賞6名／秀作6名／努力賞7名
- 第21回中林梧竹翁顕彰席書大会／梧竹大賞 塚田 愛梨／梧竹顕彰会賞 陣内 愛／特選 古賀 春香・野方 理沙／奨励賞4名／秀作4名／佳作10名
- 第62回佐賀県高等学校席書大会／特選 陣内 愛・塚田 愛梨・古賀 春香・野崎 千里・山口 亜祐・光石 夏澄／奨励賞5名／秀作10名／入選1名
- 第22回佐賀県高等学校総合文化祭書道部門／特選（来年度全国大会出場） 古賀 春香／特選（来年度全国大会出場） 野崎 千里／特選 山口 亜祐／奨励賞 野方 理沙・辻 千恵・原口ゆり子・江頭 果奈・卯野木杏奈／秀作5名／入選 6名
- 第5回尚絅大学高校生書道展／尚絅学園花桜会賞 山口 亜祐／特選 塚田 愛梨／準特選14名／秀作6名
- 第33回中林梧竹翁顕彰書道展／梧竹顕彰会賞 神内 愛／J A佐賀賞 辻 千恵／特選 江頭 果奈／奨励賞 成住 美咲・塚田 愛梨・原口ゆり子／さくら賞2名／金賞14名
- 第35回佐賀県高等学校臨書大会／特選 古賀 春香・山口 亜祐・平 由宇・上野 明音・永田 唯華・江頭 果奈・光石 夏澄・卯野木杏奈・高井 里佳／奨励賞8名

- 佐賀県書道連盟主催第56回書き初め書道展／特選 野方 理沙・野崎 千里／秀作7名／佳作10名
- 第16回全日本高等学校書道コンクール／団体賞 全国優秀校（4位）／部門最高賞 上野 明音／準部門最高賞 野崎 千里・原口ゆり子・山口 亜祐・池上 綾佳／全日本高等学校書道研究会賞12名／優秀賞3名
- 平成22年度高田保馬博士顕彰記念書道コンクール／高田保馬博士顕彰会賞 野方 理沙／金賞 古賀 春香／銀賞1名／銅賞2名

3. 美術部

- 国際中等学生美術公募展／銀賞 副島 彩花／特選 有瀬 浩美
- 第22回佐賀県高等学校総合文化祭美術・工芸部門／佳作2名
- 平成22年度全国地域安全運動ポスターコンクール／特選 副島 彩花
- 平成22年度赤い羽根ポスターデザイン／入選1名／平成22年度赤い羽根ポスターデザイン・標語／学校賞

4. 放送部

- 第57回NHK杯全国高校放送コンテスト佐賀県大会／奨励賞 出水明日香
- 第34回佐賀県高校放送コンテスト、第22回佐賀県高等学校総合文化祭放送部門／朗読部門 優良賞 出水明日香／アナウンス部門 奨励賞 松浦 夏姫

5. その他

- 第21回伊藤園おーいお茶新俳句大賞／佳作特別賞 光野 礼音／団体応募賞 小城高等学校
- 第56回青少年読書感想文コンクール／優良 高井 里佳・神内望那美



書道部

支部総会報告

2010年度



関東支部

10月16日 銀座アスター お茶の水賓館 130名

第一部総会は高校32回の川副先輩の司会でスタートしました。最初に高校6回の吉村支部長の挨拶に始まり、次に高校14回の榎崎幹事長の会務・会計報告、監査報告が行われ、拍手を持って承認されました。また、高校7回の齊藤副支部長から新規事業（会報作成）の説明がありました。さらに、高校14回の黒澤副支部長からはバス旅行企画の紹介がありました。

議事終了のあと、来賓の荒谷小城高等学校校長、高校10回の岩松黄城会会長よりご挨拶を頂戴しました。荒谷校長からは、先生達の教育環境の改善を図るため、マニュアル作成が進められており、最終段階になっ



た説明がありました。岩松会長からは、青木繁画伯の朝日の絵画が人気を博しており、各地の美術館から展示の問い合わせが多数あるお話を頂戴しました。様々な形で、小城、佐賀の発展に尽力されている姿が窺えました。また、高校11回の久本中京支部長からも挨拶を頂戴しました。

第二部黄城の集い（懇親会）が高校38回の古賀、田中の司会でスタートしました。開宴の挨拶、乾杯のご挨拶を最長老の旧中40回の石盛さまより頂戴しました。大変お元気な様子で、乾杯の御発声を頂き、和やかなムードへと移って行きました。

続いて上京者の紹介があり、本年度本部総会担当、37回を代表して鳥井先輩より挨拶を頂戴しました。続いて来年度本部総会担当、38回を代表して北島実行委員長より、来年に向けた気持ちを込めた力強い挨拶がありました。

校歌斉唱では旧制中学校の池田先輩、石盛先輩に斉唱いただきました。ありがとうございました。旧制女学校の校歌、高校の校歌斉唱へと

最後は大合唱で結びとなりました。

みなさんのテンションがなかなか下がらない中、先輩の一声で、応援団でご活躍された32回の川副先輩からエールを頂戴しました。一段と団結力が上がったと思われました。来年から定番となるのでは…期待！

最後に7回の齊藤副支部長より閉会のご挨拶を頂き、関東一本締めで閉会致しました。

（高校38回 古賀 満弘）

中京支部

10月3日 名鉄ニューグランド 35名

中京支部・創立15周年を迎えることが出来ました。会員皆様の多大なご支援のおかげと感謝申し上げます。岩松会長・荒谷小城高校長・関東関西支部の代表、県人会会長・先輩・後輩の皆さん、37回・38回の幹事の皆さん、総勢35名の参加、少数ではありましたが、2倍にも3倍にも感じる盛り上がりだったと思っています。15周年記念として名古屋CBCのラジオ番組のパーソナリティーとして活躍され、茶の間の人気者となり後に国会議員まで経験された「新聞正次」氏を迎え「絆」を題材に講演依頼しましたが、自画自賛で終了、しかし放送局内の裏話や、人気番組の成り立ち等、目新しく感じる事が出来ました。名古屋弁を愛し、名古屋ドラゴンズを愛し、故郷を愛し続けることは特筆すべきです。これからも中京支部が、1歩も2歩も前進するよう世話人一同努めたいと願っています。

（高校11回 中京支部長 久本 哲義）



関西支部

10月17日 ホテルプリムローズ大阪 50名

岩松黄城会会長、荒谷校長先生、吉村関東支部長、久本中京支部長を来賓としてお迎えし、37回38回卒の本部総会実行委員の方にもご参加頂き、楽しく賑やかな支部総会となりました。

1部総会では木崎支部長挨拶に続き、会長、校長先生にご祝辞を頂戴し、事務局より会計と支部活動の報告がありました。

第2部は、現在の地元佐賀の様子撮影されたDVD視聴会と景品付き故郷クイズで大いに盛り上がりしました。

第3部は、懐かしい故郷の味が並ぶ物品販売やビンゴ大会があり、あっという間の4時間でした。高校生時代には接する機会を持てなかった先輩方にも、当時の学校や地元の興味深いエピソード等を聞かせて頂き、とても有意義な時間を過ごせました。

貴重な経験とご縁を授かり、本当に感謝しております。

（高校37回 川中 佳子）



関門・北九州支部

10月24日 リーガロイヤルホテル小倉 18名

年々と出席者が減少していることから、参加者の増加を図るために、総会の案内も約100名に拡大し、開催方法についても日曜日の昼間に開催することといたしました。



また、総会資料にふるさとの写真を掲載したり、関門・北九州支部のブログを立ち上げるなど、参加者増加のための情報発信を行いました。

支部総会当日は、野中支部長の挨拶に続き、岩松会長、荒谷校長先生から母校やふるさとの紹介があり、皆さん懐かしく聞き入っていました。支部員、来賓あわせて総勢18名とこじんまりとした会でありましたが、皆さん久しぶりの再会に和気あいあいと歓談をされ、2時間があっ

という間に過ぎ、最後は全員の校歌斉唱で締めくくりました。

来年は中島先輩（旧中43回）が尺八を披露される予定です。関門・北九州支部の皆さまは是非ご参加下さい。（高校35回 宝蔵寺和夫）

福岡支部

10月9日 福岡国際ホール 130名

昨年10月、福岡支部総会は盛況をもって無事終わる事ができました。これも諸先輩方および同級の面々の多大なるご援助があったからだ大変感謝いたしております。

しかしながら、昨今の経済状況は悪化の一途をたどり、明るい兆しもほぼ見えない不安定な状況です。

今回の黄城会で強く私が思うことは、「卒業生の皆様がこの会を利用しネットワークを広げ、もっともっと交流を深めることによって、力を合わせてこの難局を突破すること」が、これからの黄城会に求められているのではないかと思います。

幹事会や役員会のあり方、過去の会運営事例や慣習を今一度見直し、時代に合った「黄城会」への、改革移行を今こそ推し進めるべきではないでしょうか。

（高校37回 坂田建志郎）

唐津支部

2月6日 唐津シティホテル 44名

本部より岩松会長、母校より荒谷校長先生、佐賀支部、福岡支部の役員の方も来賓としてお越しいただきました。

総会では、白石支部長の支部活動の報告と、黄城会本部や各支部の活動の紹介、最近の学校、生徒たちの近況をうかがいました。



次に懇親会では、当支部の田中さんによる日本舞踊、江口さんによる南京玉すだれなどの大道芸を、アトラクションとして披露していただきました。また特別ゲストとしてお呼びした多久市在住の中西さん親子（グループ名 夢楽人 むらびと）によるオリジナル曲のミニコンサートも楽しんでもらいました。

短い時間でしたが、母校の先輩、同級生、後輩の方と楽しい時間を共

有することができました。今後とも、一人でも多くの会員の方の参加を目指して活動していきます。

（高校28回 唐津支部事務局長 鮎川 正博）

佐賀支部

11月5日 グランデはがくれ 170名

これまで、高校の同窓会参加の機会をいつも逃していた私が、平成22年度佐賀支部総会では、司会を務めさせていただきました。ほとんどの参加者は、初めてお会いする先輩方、また、在学当時の恩師と、人生の大先輩です。会話を弾ませ、楽しいお酒を交わし、ゲームや余興を楽しまれている先輩方の姿を司会席より拝見し、改めて、歴史ある「黄城会」のパワーを実感した一日でした。正直、これまで、やや遠い存在であった「黄城会」が、卒業後25年の今、支部総会、来る5月の総会の準備に関わることで、とても身近なものになりました。久しぶりに佐賀に戻り、黄城会の準備に専念している友達の姿を見ることで、「自分も関わりたい」と自然と考えるようになりました。この気持ちは、その空間や時間を共にし、初めて実感できるものだと思います。頻繁に行われている黄城会に向けての打ち合わせでは、久しぶりに昔話に盛り上がり、高校時代には話したことのない同級生とも、自然と仲間になれる、さらに、支部総会では、大先輩の方々と目に見えない心のつながりを実感させる「黄城会」。今もしっかり卒業生に受け継がれている理由はここにあるのかなと思います。このような機会を与えてくれる「黄城会」に感謝するとともに、今後、後輩たちも同じように、この伝統の素晴らしさを感じ、その輪がさらに広がっていくことを願っています。

（高校38回 小野 康子）



多久支部

2月13日 北多久公民館 約100名

当日は、前日までの寒波が嘘のような、また2月の中旬とは思えぬ程の小春日和の中、本部から岩松会長様、高校から荒谷校長先生、さらには多久支部相談役の横尾多久市長様

のご臨席を賜り、総勢約100名の参加を得て、厳粛な中にも和やかな空気の溢れる第23回の支部総会となりました。

第2部では、郷土芸能として地元で活躍中の「佐賀竹聖会」「子楽会」「華艶会」の皆様方の民謡・謡曲・舞等々により地域の伝統文化を堪能する事が出来ましたし、その後の第3部懇親の場では、当時の思い出話や笑い話を振り返りながら、年代・世代を越えた同窓が近く、そして親しく語り合い、今も変わらぬ先輩方の想いや熱意を後輩が受け継ぐ絶好の機会となったのではないのでしょうか。

最後は、来年の当地での再会を誓い合い、支部総会の閉会を惜しみながらの散会となりました。

（高校37回 梶原 直樹）



県庁支部

8月25日 グランデはがくれ 84名

今回は、84名という記録的な参加人員となり、会場も素晴らしい雰囲気となりました。本部からは岩松会長、小城高校からは荒谷校長先生、佐賀支部からは、安藤、梶原様両副支部長、そして県議会からは伊東議員、藤木議員にご参加いただき賑やかな総会となりました。また女性職員13名もの参加がなされましたし、さらには、今年4月に入庁したばかりの新採職員も駆けつけてくれ、県庁支部の揺るぎない未来を感じまし



た。これからも楽しい交流、そして教育委員会を含めた黄城会の県職員の輪が大きく広がっていきなあってと幸せな気持ちになりました。さて、恐縮ですがPRです。佐賀県では、『ふるさと納税』によりまして、県立学校を指定した教育支援もできます。（県HP参照）

母校と黄城会の発展を祈念します。

（高校24回 県庁支部長 馬場 光彦）

祝 卒業50周年を祝う

“青春回帰”で心豊かな時間

黄城会総会と全国同窓会の準備

昨年の黄城会総会の後、翌年の卒業50周年のステージ登壇と全国同窓会をどう進めるか―と、地元の有志で話し合いました。毎月第1金曜日、小城町の居酒屋で開いていた会合を活用しました。同窓会の実行委員長に黄城会常任理事の谷口征一君（小城町）、事務局長に川口嘉教君（北多久町）をお願いし作業を進めました。議論が分かれたのが同窓会の日時。5月3日の総会前か、総会の夜にするかで侃々諤々。「朝の早い総会に揃って参加、ステージに登壇する」と「同窓会は夜遅くまで、ゆったり気分でやりたい」の両論でした。参加者調査を兼ね、希望日時を全員に聞きましたが、「当日の夜に」が多く、決着しました。年明けの3月、未曾有の東日本大震災が列島を襲い、一帯は壊滅状態で、放射能汚染も発生、エネルギー政策見直しが検討される事態になりました。震災の影響で参加を見合わせる人もあり、100人前後の目標が8割程度の達成率でした。

黄城会総会

3日の総会当日は、午前8時に地元有志が黄城教育会館前に集合、荷物の取りまとめや会場への案内をしました。私たち卒業50周年の席は、ステージの前に設営されていましたが初めて参加する人も多く、真剣な面持ちでした。

黄城の集い

次いで黄城の集い。物故者の追悼、各支部出席者の紹介、代表者挨拶がありました。恩師紹介では、小城高野球部の監督を務め、初めて“甲子園”の土を踏ませた高校13回卒業の宮島光年君（厳木町）も登場、総会実行委員から花束を贈られました。「卒業50周年を祝う」では、小城高吹奏楽部の演奏に合わせ、旧制中学校の校旗を捧げる貝通丸明君（東京・多摩市）、旧制高等女学校の校旗を持つ宇高郁子さん（小城町）、新制高校の校旗を掲げる鍵山征司君（神戸

市）など9人を先頭に、合わせて80余人がステージに上りました。黄城会の岩松会長から大賀文博君（埼玉・所沢市）へ、お祝いの言葉と金一封が贈られ、会場からも温かい拍手が寄せられました。大賀君が一同を代表して「私たちの高校時代は、就職列車が走るなど、高度経済成長の幕開けの時期でした。志を持って進学したり、社会人のスタートを切った友も多くいました。卒業して50年、現役を離れた人も多いですが、社会と関わりを持つ生き方をしていきたいと思えます。今日頂いた皆様の温かいお気持ちは忘れません」とお礼を述べました。

まんじゅう会

伝統のまんじゅう会が今年は貸し切りで楽しめました。卒業50年を迎えた者の特権といえましょう。黄城教育会館に用意された会場では、親しい者同士でテーブルを囲み、弁当を広げて話が弾みました。来年の実行委員を務める高校39回卒の皆さんが、ビールの栓を景気よく抜き、まんじゅうを各人に用意してくれました。ゆったりした会場で、かゆい所に手が届くような世話を受け、「黄城会の一員でよかった」としみじみ感じたひと時でした。

全国同窓会

午後2時半、バス2台で全国同窓会の会場となっている大和町の龍登園へ。記念写真の撮影も済ませ午後5時半、81人が参加して同窓会がスタート。司会は小路英毅君（東多久町）と山田哲子さん（小城町）。51人の物故者と東日本大震災の犠牲者に黙祷を捧げ、冥福を祈りました。

新高13回生 中尾 久司



た。次いで評議員の中尾久司（小城町）が「私たちがお金を使うことで地域経済の活性化を図りましょう。平成22年の黄城会会費納入者は、前年より9人増えました」と開会の挨拶。遠来者を代表して鍵山君が「楽しく参加できるのは、世話をしてくれた方々のお陰です。感謝します」と述べました。この後、小川直江さん（鹿島市）の音頭で乾杯、歓談に移りました。ステージでは滝静子さん（北多久町）が日本舞踊を披露、盛大な喝采を受けました。歓談の合間を縫って、評議員の山田さんが黄城会の会費納入を呼び掛けましたが、なんと24人（1年会費2千円21人、5年会費1万円3人）もの人が応じてくれました。

2次会はカラオケと歓談の2コース。カラオケは1時間半の貸し切りで30人前後が詰めかけ、歌に合わせて踊りも飛び出すなど、青春時代を取り戻したかのような盛り上がりでした。歓談派には飲み物、おつまみが用意された1部屋が提供されました。10人前後の人が交替で集まり午前零時過ぎまで話に花が咲きました。眠いのも忘れ、目を輝かせての“青春回帰”でした。

佐賀市内観光

5月4日の市内観光には27人（男14人、女13人）が参加。まず佐賀城本丸歴史館を見学しました。同館から歩いて5～6分足らずの県立美術館では、本県出身で風の画家として知られる中島潔氏の作品展が開催されていました。圧倒されたのは京都の寺に奉納したという襖絵でした。昼食の後、散会しました。





感謝を忘れない

北川 仁（九州大学理学部）

私はA O入試で九州大学理学部数学科に合格しました。

この結果は小城高校での経験が活き、私の周囲の方々のサポートがあって初めてもたらされたものだと思います。

私は小城高校での3年間、全く部



活動に加入しておりませんでした。だから部活動をしていない分、勉強は勿論のことそれ以外で頑張れることはないかと考えました。それで私は生徒会や体育祭の応援団に参加しました。そこでは協力することの尊さや信頼をうることの難しさを体で学びました。これらの経験はその後の学校生活をより豊かなものとしてくれたと思います。

3年間を通して私が頑張ったことは数学です。受験の為としても努力しましたが、特に力を入れたのはその先を見据えた内容についてです。高校2年生のときのオンリーワン研究では、数学の『オイラーの式』と

呼ばれる式の証明について研究し、数学の持つ高尚さや美しさを改めて実感しました。

担任の山崎先生からA O入試で九州大学に挑むことを薦められた時は驚きましたが、山崎先生を中心に先生方が支援して下さり万全の状態でした。数学の記述試験、口頭試問はやはり経験したことがないくらいに程度が高くただ全力を尽くすことだけを考えて過ごしました。

合格発表の当日、自分の受験番号を見つけた時は嬉しくて走り回りたくなりました。

私は、家族や先生方の支援、友人の応援があつての九州大学合格だと思うので、たくさんの人々に多くを尽くすことのできる大人になろうと決めました。これから黄城会の一員として努力する所存ですので、よろしくお願いいたします。

夢に向かって

坂井 友美（広島大学教育学部）



私の高校生活での一番の思い出は、高校で最も大きな舞台であるインターハイで、柔道競技において全国3位に入賞することができ、周りの全ての人に支えられているということを実感できたことです。

私は、小学生の頃から体育教員になりたいという夢を持っていました。そのためには、スポーツを一生懸命頑張ると同時に、勉強もすることが必要であり、文武両道を掲げている小城高校を志望しました。

入学し、私は全国優勝という目標

を立てました。辛いことや、苦しいこともたくさんありましたが、ここまでがんばってこれたのは、厳しく指導して下さった、寺戸先生と原田先生・共に頑張ってきた仲間・試合前応援して下さったり、試合後一緒に喜んで下さった先生方や友達みんなのおかげです。

大学では、柔道競技において更に上を目指すとともに、将来の夢である体育教員になりたいと思い、広島大学教育学部を受験することに決めました。受験の際も、

たくさんの先生方が指導や応援をして下さり合格することができました。

大学でも、これまで支えて下さった先生方や友達への感謝の気持ちを忘れずに、一生懸命頑張りたいと思います。

また、黄城会の一員としてがんばりたいと思いますので、よろしくお願いします。

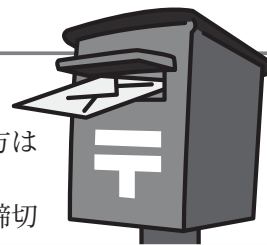


投稿

クラス会
便り

トピックス

掲載希望の方は
事務局まで
2012年4月締切



投稿

戦没者鎮魂

旧中40回卒 石盛 要

先の大戦で戦死又は抑留中に他界された軍人軍属及び空襲などの戦災により命を落とされた民間人で、旧制中学、高女の在校生と卒業生の消息を知りたいと思っていたところ、会報(39)の記事「南海の空に散った森中尉」(旧中【40】野田直行)を読んで、会員名簿にも物故者として記載されているものの残念ながらその情報は極めて少ない。森中尉は海軍予備学生13期で同期には作家の故島尾敏雄(魚雷艇震洋特攻隊)がいる。昭和18年10月の入隊で戦死比率の最も高かった年代で、私が海軍に入ったのがちょうど1年後の19年9月、その間の戦況の悪化は雲泥の差で、入隊直前まで長崎にしながら軍隊に疎開したようなもので原爆の惨禍を免れたのは皮肉なことであった。会報に投稿された記事と私の乏しい資料から犠牲者を挙げてみると次の方々になるが、実数は100名を下らないのではないかと推量する。事務局はじめ会員諸兄姉の投稿を切望する。【数字】は卒業回、年号はすべて昭和。

- 【13】浜野 軍一 (七島) 那覇方面根拠地隊司令部附 20年6月13日 海軍少将
 - 【15】白浜 政七 (江頭) 第17駆逐隊司令 ビアク島水域 19年6月8日海軍少将
 - 【30】森永 正彦 牛津町出身 年月日不詳 ビルマ (会報25号 溝口敏夫氏の手記)
 - 【33】犬山 良雄 年月日、場所共に不明 前記溝口氏の手記によると久留米48聯隊で「ワサンも到頭来たナイ」と言われたと言う。
 - 【34】福島 義治 年月日不明。レイテ沖海戦で。
 - 【34】小柳 喜美 年月日、場所不明 海軍軍医
 - 【35】早川 治 20年2月9日、台湾海峡で、船舶工兵第一聯隊。陸軍兵長。輸送船の海没。私の実兄の妻の弟で、熊本市在住の高女【23】日元あき子は実妹。
 - 【36】永淵 佐七 年月日不詳。ニューギニア。
 - 【36】本庄 秀夫 同上 サイパン島
 - 【36】西村 慶文 同上 ビルマ
 - 【37】城島 重一 年月日不明。済南陸軍病院。牛津小同級の城島ケイさんの兄。
 - 【38】森 忠司 20年4月6日、神風神雷部隊、第3建武隊々長として零戦爆装19機を率い鹿屋基地を発進、喜界島190°、76哩の洋上で機動部隊に突入。
 - 【40】永富 英夫 19年台湾沖航空戦。一飛曹(一等飛行兵曹の略)
 - 【42】南里 勇 20年6月3日、神風第4正統隊(99艦爆)、第2国分基地を発進、沖縄海域の艦船に突入。
 - 【42】堀 五郎 20年1月。サイゴン上空で哨戒任務中、グラマン戦闘機により。
- 南里、堀両名共、甲飛(甲種飛行予科練習生の略 当時旧中3年程度の学力で受験出来た。)12期。会報33号の川副武男(42)氏の記事から。

森忠司、南里勇両名は特攻隊員の記録が公にされているが、その他については不明な点が多く、諸兄姉の協力をお願いします。

投稿

挽歌 大池幸雄君を送る

高校5回卒 小寺 稔

平成22年10月5日に、同級生大池幸雄君が76歳の生涯を閉じました。そして御家庭で静かに見送られていました。

桜岡小学校、小城中学校、小城高等学校を経て東大法学部を卒業し、九電に定年まで勤務していました。

160センチメートルに届かない体

は俊敏で、猿と仇名されていました。小城郡小学校対抗体育大会では走り高跳びで優勝しました。野球は中学1年からショートストップのレギュラー選手でした。相撲も大きい人に負けない巧さがありました。勿論学業もトップの成績でした。ただ、秀才らしくない秀才

でした。仕事でも情の人で、ヒトに頼られると断れない人でした。酒も強くはないのに断れない人でした。酔うと『母さんは夜鍋をして手袋編んでくれた』と、泣きそうな顔をして大声で歌っていました。

いまでも私達の間では、異彩を放つ星です。

トピックス

東日本大震災義援金

この度の東日本大震災で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

被災された方に、黄城会として少しでも支援をするため5月3日の黄城会総会において平成23年度本会計より義援金を贈ることに議決されました。

また当日会場で、本年度総会実行委員高校38回生と副実行委員高校39回生の募金活動に多くの参加者より義援金が寄せられました。

2つの義援金は、岩松要輔会長と七田義孝副会長によって5月19日に佐賀善意銀行に寄託され、その後日本赤十字社、共同募金会を通じて全額を被災地に届けられます。

その他5月15日佐賀支部主催のゴルフコンペ参加者の義援金も同様に届けられています。

記

黄城会本会計	100,000円（日本赤十字社）
総会参加者一同	234,000円（共同募金会）
佐賀支部ゴルフコンペ参加者一同	16,000円



トピックス

財団法人黄城教育会館について

財団法人黄城教育会館につきましては、平成19年の新しい法律改正により公益法人が一般法人に移行するかの選択を迫られていましたが、財団法人の理事会において専門家の意見を参考に様々な検討をした結果一般法人に移行することに決定致しました。

今後平成23年度に移行の申請をして本年度中に認可を受ける予定で手続きを進めています。

来年度には、それぞれの機会に皆様にご報告させていただきます。

トピックス

第8回ゴルフコンペ

優勝 鶴丸 達吉 氏!!

毎年恒例の第8回黄城会ゴルフコンペ（佐賀支部主催）が5月15日（日）大和不動カントリークラブに於いて開催されました。総勢45名の参加があり鶴丸達吉氏の優勝で幕を閉じ無事終了することができました。また参加者から東日本大震災への義援金を寄せられましたので贈らせていただきました。

なお上位入賞者の方々は次の通りとなっております。開催にあたって準備等ご尽力いただいた方々誠にありがとうございました。

優勝	鶴丸 達吉	6位	東島 裕治
準優勝	木下 和博	7位	木村 信文
3位	小山 晃	8位	池田 俊一
4位	西村 英敏	9位	中島 信哉
5位	北島 等	10位	中山 健二



おことわり

多数の原稿をいただきましたが紙面の都合上掲載できませんでした。申し訳ございませんでした。来年以降は紙面を増やしより多くの原稿を掲載できるように考えておりますのでよろしくお願いいたします。（編集部）

黄城会総会を終えて

2011年黄城会総会実行委員会
実行委員長 北島 清孝 (高校38回)



まずは、2011年度・創立112周年黄城会総会に御臨席下さった会員の皆様、いろいろな場面で私達38期生を支えて下さった皆様へ、心より感謝申し上げます。

多くの皆様のお力添えを頂戴し、5月3日の総会および饅頭会を盛会のうちに閉じる事ができました。誠にありがとうございました。

今年度のスローガンは「道—未来へと続く黄城の道・受け継がれる黄城の心」でした。私達の母校小城高校は1899年に創立されて以来、その歴史は今年で112周年を迎え、現在もこの学舎では多くの若い生徒の皆さんが、それぞれの目標に向かって道を進んでいます。私達も卒業25年

目にして、新たな気持ちで先輩方から受け継いだ黄城会の伝統を心に刻み、そして未来へ繋げたいと思い、このスローガンに決定をいたしました。

37期の先輩方には、昨年1月の活動開始から今回の総会終了まで色々なご指導を賜りました。また各支部総会へ出席して多くの諸先輩方のこれまでの歩みを拝聴できた事は若輩である私にとっては大変興味深く、各支部へ出席するたびに新しい出会いがあり新しい話が聴ける事は、毎回私の大きな楽しみでした。先輩諸氏から伺ったお話は、今後私にとって大きな糧となっていく事と思います。

私達38期生の恩師でもあられる岩松会長が、総会終了後の学年同窓会の席で「黄城会の目的は、同窓の絆を強め母校小城高校を支援する事です。」とおっしゃいましたが、まさしく、この饅頭会・総会の当番があるからこそ、同学年の絆、全国各地にいらっしゃる先輩・後輩との出会いの機会を得られたのだと実感しております。当番を経験したおかげで、自分達が小城高校の卒業生である事を25年の歳月を経た今、あらためて誇りに思っている次第です。

最後になりましたが高校吹奏楽部の皆さん、放送部の皆さん、孔子の里・趙勇さん、青山会の子ども達、ありがとうございました！

饅頭会を終えて…

2012年黄城会総会実行委員会
実行委員長 香川 弘行 (高校39回)



私は小城高校を卒業してからほとんど県外に在住していた事もあり、お恥ずかしい話ですが黄城会総会がどのようなものか正直あまり知りませんでした。

昨年、佐賀に戻ってきて39期の仲間から黄城会総会の事を聞きました。「高校時代大変お世話になった38期の先輩の皆様が寝る時間を削って総会の準備をされている。次回は私達が主体になって運営していかなければならない。伝統ある黄城会総会を私達の代で途切れさせては先輩方、後輩達にも顔向け出来ない」と。仲間の顔は真剣そのものでした。仲間達の真剣な眼差しに私の心は動かされました。

小城高校時代の仲間は一生付き合

える仲間です。私が苦しい時にいつも救ってくれました。私は大学を卒業し就職してすぐに、肝臓を患い3ヶ月間入院しました。今後どうなるか状況が分からない中、焦りと不安で心が折れそうでした。それを救ってくれたのが仲間です。3ヶ月間毎日のように入れ替わり仲間がお見舞いに来てくれて私の事を励ましてくれました。その時どんなに勇気づけられたか、励まされたか……。その時の気持ちは一生忘れません。

そんな仲間の為にも微力ですが役立つなら実行委員長を引き受けようと決心しました。私一人では何もできませんが私には信頼できる仲間がいます。東日本大震災で世界が一つ

になっているこの今、同級生400名が一つになれない訳がないと思います。そのような気持ちでやり遂げたいです。

実際、総会で39期生が全員で壇上に立たせて頂き、代表で私が挨拶をさせて頂いた後は「心から絶対に次の総会を成功させる」と今迄以上に強く、強く感じていました。又、饅頭会では先輩方と色々な話をさせて頂き、黄城会への愛の大きさに深い感銘を受けました。これからご迷惑をお掛けする事が多々あるかと思いますが、素晴らしい先輩方のご指導のもと39期生が心をつにして、やり遂げる所存です。今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

平成23年度黄城会役員一覧

▷会長＝岩松要輔（高10回）▷副会長＝七田義孝（高15回）志藤茂子（高16回）川副春海（高26回）▷顧問＝内野安成（校長）宮崎道広（教頭）▷理事＝石井倫平（中45回）内野正久（高3回）永池安彦（高4回）川副富男（高5回）横田宏（高6回）兵働文雄（高7回）大野雅央（高8回）真子輝雄（高11回）小柳平

一郎（高12回）谷口征一（高13回）森永四郎（高14回）梅崎茂弘（高16回）松尾剛之（高17回）野田和良（高18回）小野茂（高19回）野田豊秋（高20回）田中丸晴雄（高21回）坂井一弥（高22回）堤覚三（高23回）古賀正人（高24回）圓城寺猛（高25回）横尾俊彦（高27回）井手美保子（高28回）堤雅彦（高29回）岡正幸

（高30回）安永正（高31回）伊東猛彦（高32回）水田信（高33回）真崎俊夫（高34回）松尾直人（高35回）西岡聖師（高36回）梶原聖司（高37回）▷監事＝梶原千尋（高5回）金丸盛登（高9回）井手真喜子（高29回）▷事務局長＝大野雅央（高8回）▷庶務＝山崎史子（高41回）▷会計＝大場知子（高37回）

支部役員一覧

[関東支部]▷支部長＝吉村久夫（高6）▷副支部長＝齊藤正治（高7）南里幸太郎（高8）黒澤知子（高12）▷会計監事＝南川政俊（高6）江里口宗男（高7）▷幹事長＝檜崎進（高14）▷事務局長兼常任幹事＝川副隆之（高32）▷顧問＝藤永清子（女27）江頭清昌（高4）

[中京支部]▷支部長＝久本哲義（高11）▷副支部長＝庭木利秀（高7）川島公子（高11）梅谷雅和（高校17）▷事務局長＝江里口多美雄（高21）

[関西支部]▷支部長＝木崎剛明（高5）▷副支部長＝服部登代子（高4）米田数英（高9）▷名誉顧問＝黒岩澄雄（中41）▷顧問＝山田正信（高7）▷事務局長兼会計＝内田昇（高17）▷事務局次長＝古賀和良（高校31）

中村貴代香（高校31）▷会計監査＝米満正夫（高校9）

[関門・北九州支部]▷支部長＝野中栄三（高3）▷副支部長＝橋間啓人（高9）▷事務局＝永山重隆（高13）▷幹事＝大石ちづき（高4）諸富通子（高4）萩野惇子（高6）梶原三千代（高19）安達悦子（高23）山口孝美（高29）菊池起久子（高31）宝蔵寺和夫（高35）

[福岡支部]▷支部長＝武富一三（高8）▷副支部長＝池田義實（高8）養田喜美代（高14）▷幹事長＝山口順蔵（高18）古賀省吾（高26）▷副幹事長＝堺八千代（高25）▷監査＝大塚朝夫（高3）▷顧問＝小柳平八郎（高5）伊東浩平（高6）小川勇紀子（高4）

[長崎支部]▷支部長＝中村利夫（中37）▷副支部長＝大場勝彦（高11）

[佐賀支部]▷支部長＝山田浅雄（高2）▷副支部長＝梶原千尋（高5）安藤真行（高15）宮原史枝（高15）▷幹事長兼事務局長＝江里口勉（高16）

[唐津支部]▷支部長＝白石元秀（高7）▷副支部長＝永渕明則（高16）▷事務局長＝鮎川正博（高28）

[多久支部]▷支部長＝古賀栄子（女23）▷副支部長＝尾形節子（高4）吉浦啓一郎（高15）牛島和廣（高17）▷相談役＝横尾俊彦（高27）▷幹事長＝内野正久（高3）▷事務局長＝古賀通雄（高23）

[県庁支部]▷支部長＝馬場光彦（高24）▷幹事長＝大坪広幸（高27）

平成22年4月～平成23年3月までの物故者（敬称略）（回期）氏名〔住所〕

（旧中30）蘭登〔佐賀市〕（31）相島利郎〔横浜市〕（31）橋本孝次〔北葛城郡〕（32）富永俊男〔小城市〕（32）渕野俊郎〔小城市〕（32）三浦一郎〔練馬区〕（33）江頭計〔大田区〕（33）光野一〔北佐久郡〕（35）執行大樹〔三養基郡〕（35）宮副政義〔小城市〕（36）松尾健次〔福岡市〕（37）古賀與平〔藤沢市〕（38）岩永常雪〔佐賀市〕（38）土井敏生〔熊本市〕（39）一ノ瀬章〔江戸川区〕（40）石井祐嗣〔小城市〕（40）北島辰馬〔多久市〕（40）小栄敏朗〔小城市〕（40）南里和義〔小城市〕（41）原口太一郎〔小城市〕（43）江上孝一〔唐津市〕（43）

川副正行〔川崎市〕（43）菰原栄〔多久市〕（43）遠江辰己〔小城市〕（46）牟田章〔多久市〕（高女9）古賀ウタ〔鳥栖市〕（14）須藤ケサエ〔米沢市〕（16）恋塚フミ〔伊万里市〕（18）庄野貞子〔佐賀市〕（21）南里妙子〔福岡市〕（25）中島朝子〔北九州市〕（高校1）片桐勝輔〔柏市〕（1）船津丸亨〔守口市〕（1）森茂春〔豊明市〕（1）山脇基正〔秦野市〕（2）古賀慶信〔京都市〕（3）古賀堆孔〔多久市〕（3）徳廣彦四郎〔小城市〕（3）中村勇〔長崎市〕（3）早田スミエ〔鳥栖市〕（4）早田健二〔鳥栖

市〕（5）糸山寛〔多久市〕（5）今泉好勝〔宗像市〕（5）大池幸雄〔福岡市〕（5）武富毅〔5〕藤瀬国光〔諫早市〕（8）江口進博〔小城市〕（8）陣内英城〔相模原市〕（8）冬野多久男〔挟山市〕（8）西川和子〔小城市〕（8）宮原光子〔川西市〕（8）吉田ハツエ〔佐賀市〕（10）水田清四郎〔小城市〕（12）三根勝〔横浜市〕（12）田久保静子〔小城市〕（14）江里口聰〔小城市〕（17）尾形忠彦〔多久市〕（19）馬場輝雄〔志木市〕（19）森岡慶彰〔多久市〕（20）玉浦元陽〔多久市〕（21）楠田知葉〔小城市〕

寄 贈（平成22年4月～平成23年3月）

寄附金 高校30回生一同様 2,300円／高校12回生一同様（卒業50周年） 20,000円／佐賀支部主催第7回黄城会ゴルフコンペより 20,000円

図 書 株式会社角川書店様 『竹島御免状』／唐津市近代図書館様 『海に魅せられた画家たち「海を想う」』／小城市教育委員会様 『小城の教育と地域社会』／明朗クラブ事務局様 『バレーボール部OB・OG会記録資料集1』／安本和夫様（旧中43回）『解析幾何学辞典 他3冊』

今年の黄城会会報「黄城」の編集にご協力頂きましてありがとうございました。また来年度も沢山の原稿をお寄せください。同封の会費のお願いですが、会の財政逼迫の折、納入のほど、切にお願いします。

黄城教育会館では黄城会会員の同窓会活動による会館使用について無料でご利用いただけます。
ご利用の場合は事務局までご連絡ください。

平成23年度 支部総会予定日

*平成23年度の支部総会開催日をお知らせいたしますので、こぞってご参加下さい。
(時間、会場等は各支部へお尋ねください)

支部名	予定日	氏名	電話	支部名	予定日	氏名	電話
関東	H23 10/15(土)	幹事長 檜崎 進	042-324-5857	長崎	未定	副支部長 大場 勝彦	095-823-0637
関西	H23 10/16(日)	事務局長 内田 昇	072-824-4742	唐津	H24 2/5(日)	事務局長 鮎川 正博	090-4997-1372
中京	H23 11/12(土)	事務局長 江里口多美雄	052-502-8831	佐賀	H23 11/19(土)	幹事長 江里口 勉	0952-31-9236
関門・北九	未定	幹事長 永山 重隆	093-771-0081	県庁	未定	事務局長 大坪 広幸	0952-66-4312
福岡	H23 10/8(土)	幹事長 山口 順蔵	092-591-2847	多久	H24 2/12(日)	事務局長 古賀 通雄	0952-75-3629



青木繁展

没後100年
— よみがえる神話と芸術

【京都会場】京都国立近代美術館
平成23年5月27日(金)～7月10日(日)

休館日：月曜日
観覧料〔税込〕：一般 1,200 円 / 大学生 900 円 / 高校生 500 円
団体(20 名以上)：一般 1,000 円 / 大学生 700 円 / 高校生 300 円
問合せ先：☎075-761-4111

【東京会場】ブリヂストン美術館
平成23年7月17日(日)～9月4日(日)

休館日：月曜日(ただし、7月18日は開館、7月19日は休館)
観覧料〔税込〕：一般 1,000 円 / シニア 800 円 /
大学・高校生 700 円
団体(15 名以上)：一般 800 円 / シニア 600 円 /
大学・高校生 500 円
※シニア=65 歳以上 問合せ先：☎03-5777-8600

回期便り、募集します

各卒業年次別の回期便りを平成21年度から会報に同封しております。

昨年は、20回期ほどの回期の幹事(理事、評議員のみならず)さんから、回期便りを制作して頂きました。今後も、同級生の身近な通信を、幹事さんに作って頂き、配布していこうと計画しております。制作は大変でしょうが、よろしくお願い申し上げます。

平成22年度 黄城教育会館育英奨学生

平成22年度の黄城教育会館育英奨学生は3学年合わせて12名でした。3年生の進学状況は広島大学2名、大阪大学に1名決まりました。

ホームページをリニューアル



数年前から、懸案となっていた黄城会のホームページをリニューアルしました。

卒業各年次のホームページや各支部のホームページ等リンクしています。また、ブログの形式で、日々の連絡事項や会のトピックスなども積極的に掲載しております。

HPアドレス：<http://www.ojyokai.org/>

編集後記

6月初め頃、我が家で電気代の節約をしようと冷蔵庫の上の荷物やテレビなどを押入れに入れる作業をしたところ、目に入ってしまった電子ピアノ、空気清浄機、除湿機がフル稼働中です・・・

(事務局員Y)